

西鶴織部

可

西鶴織る世乃人心



目録 四

一

一家之主殿に鼻柱いんげいしちゅう

いんげいしちゅうのちやうどく
いんげいしちゅうのちやうどく
別まはるびく中れいんげい

二

命に掛乃乞所いのちにかかるとせう

いのちにかかるとせう
いとけいなるけいするけいする
けいするけいするけいする

三

三 諸國の人と見知を修務

み人まふれ 籍徒物

うごうれりき 海のもの

一

諸國の人と見知を修務

一

四塔

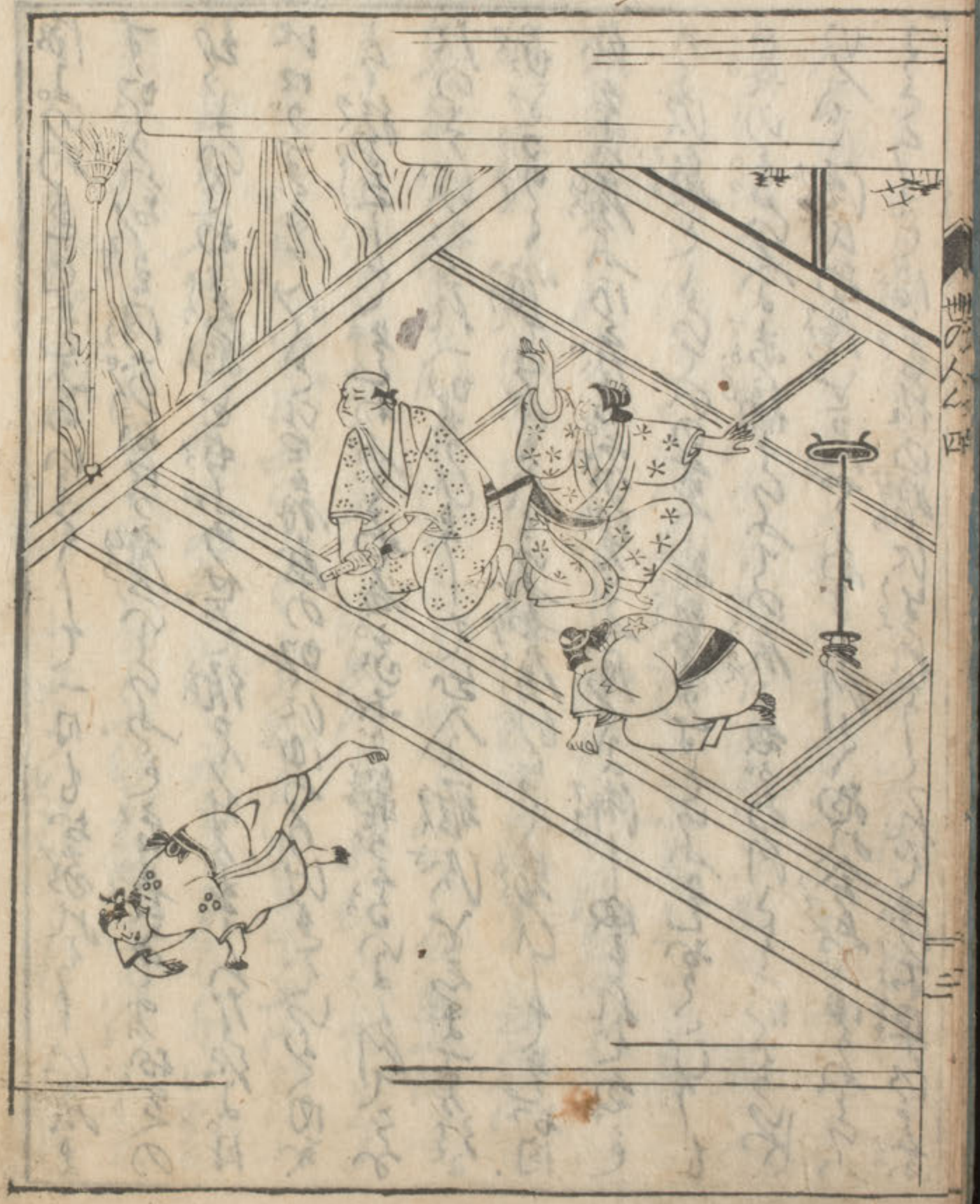
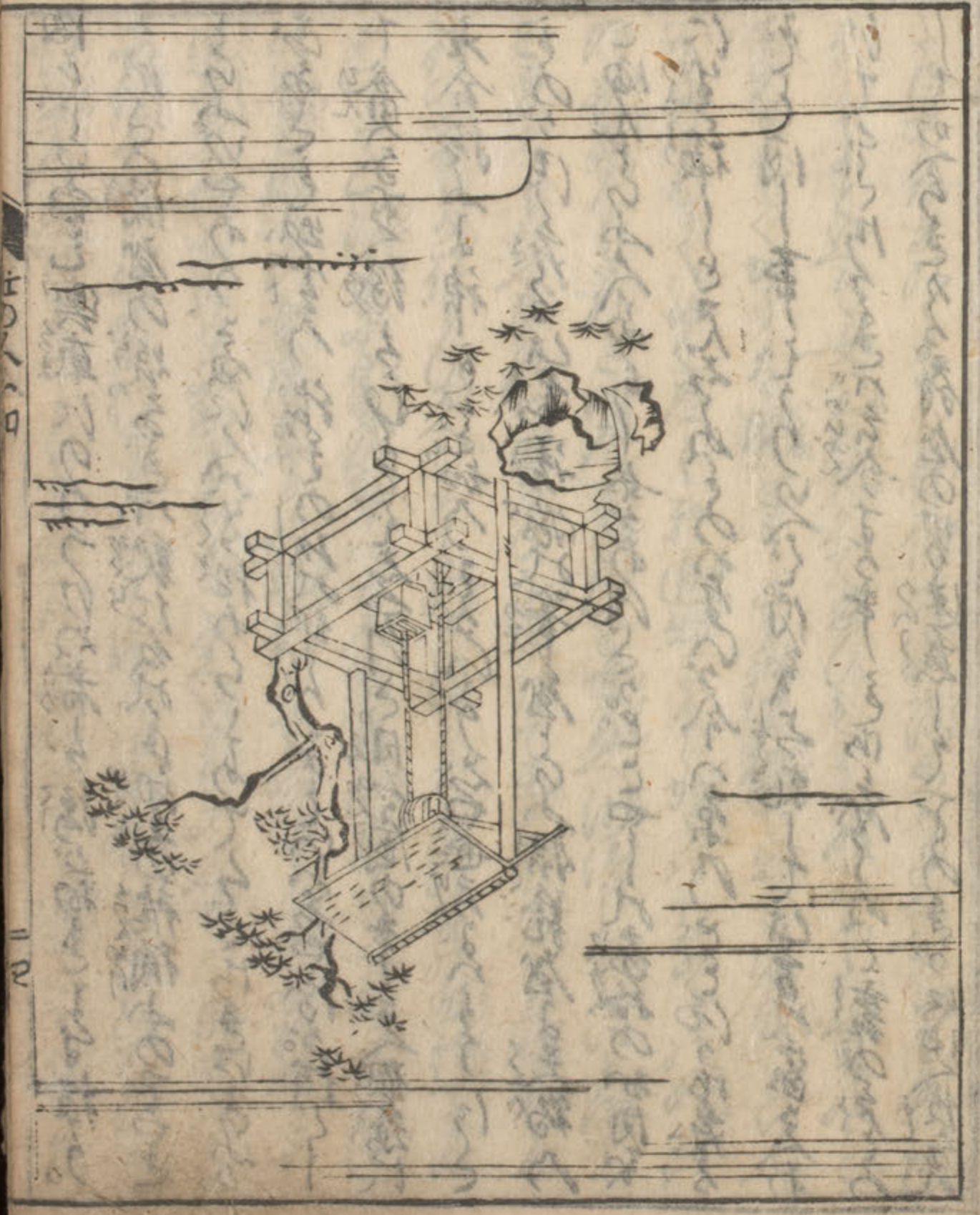
冠給養海かへ入る

一 諸主殿の鼻より

商人職人よりしず任ふきしはあそび事なれ
おれとあそびとひとし作云よ後人し世帯る鼻の端をぬ
くもりもはあぬよ又高登乃高給行んぞ下地ふりし
思して類とひく集り高登のんせと二条通り以較
お楽書物をありと流石の人し見押ふし馬丸は馬槽
子りも年物り方事めく修務はあれせん克練
を廣給のこつれあへばよ高層一被やどの者よあ
りあふおくはらとさあうららと帯まひまても入目の向
まかまよひてきとさくひけまて輝まうて人とさうび
せ居あうは世乃種とがかかん下系七条通り次水
とかりてままは女房よ高層はあれおれはのす高層あ

とも男子もみれ候子とありし高ひをほふ。たまきつりの
 及老固まけり。賞佃へ子前ひきふさふす。一れ樂とほ
 けり。時隣わくられ。素香物ごらに。あきれ肉家の鼻人
 にもぐらぐ。阿を子山乃。え物れ。味もふらん。きして。庭ま
 りの。あきれ。多る。と。庭より。退任り。ほを。に。下る。人。あ
 けく。包め。し。肉。あ。つ。つ。い。し。お。親の。産。付。て。お。さ。る。あ。り。て
 鼻。あ。ん。じ。た。ま。き。が。何。も。い。て。ま。あ。つ。う。に。無。り。と。り。あ。ひ。と。お。ま。す
 ます。箱。よ。何。と。も。い。て。ま。あ。つ。う。に。無。り。と。り。あ。ひ。と。お。ま。す
 わ。ご。う。れ。鼻。と。花。女。の。ご。く。賞。物。ま。い。と。さ。ず。一。代。書。お
 て。玉。男。入。塚。懸。して。十九。年。過。て。お。ま。す。ま。き。ご。お。に。別。の
 事。人。あ。い。と。け。り。と。い。ご。う。と。さ。り。ま。り。お。ま。す。あ。れ。し。あ。り。の。ま
 たり。何。と。も。い。て。荒。南。々。ふ。れ。う。ら。い。ら。う。い。ね。よ。と。ね。ご。ら。い。ご。り

海よのつまきをよめいしくして一日もおおれらうい。なま
 す。の。う。の。あ。ま。い。お。か。は。ぐ。廣。い。ら。あ。と。音。長。あ。う。お。ま。の
 け。さ。い。も。あ。ま。い。と。も。あ。り。せ。ご。推。入。り。付。る。ま。り。な。は。れ。よ。日
 に。は。ぐ。す。ま。き。と。い。て。は。を。鼻。の。の。に。ゆ。つ。り。け。ま。い。ご。ら。い。ご。り
 いら。あ。ま。い。と。い。て。ま。あ。つ。う。に。無。り。と。り。あ。ひ。と。お。ま。す
 た。の。ま。い。ご。ら。い。ご。り。あ。ま。い。と。い。て。ま。あ。つ。う。に。無。り。と。り。あ。ひ。と。お。ま。す
 鼻。と。い。て。ま。あ。つ。う。に。無。り。と。り。あ。ひ。と。お。ま。す
 候。系。へ。廣。ふ。り。た。る。家。受。入。り。凡。く。は。海。へ。ゆ。ら。れ。た。ま。き
 の。鼻。鼻。と。い。て。の。ま。あ。つ。う。に。無。り。と。り。あ。ひ。と。お。ま。す
 鼻。の。ま。い。ご。ら。い。ご。り。あ。ま。い。と。い。て。ま。あ。つ。う。に。無。り。と。り。あ。ひ。と。お。ま。す
 い。ん。で。源。氏。物。徳。と。い。ん。や。あ。ま。い。と。い。て。ま。あ。つ。う。に。無。り。と。り。あ。ひ。と。お。ま。す
 ころ。ころ。と。肉。書。指。の。娘。に。生。れ。ま。り。と。い。て。ま。あ。つ。う。に。無。り。と。り。あ。ひ。と。お。ま。す



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 15 lines of text, starting with a large initial letter 'E' and ending with a period. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 15 lines of text, starting with a large initial letter 'E' and ending with a period. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

とて判たれ徳虫へつきゆといひの意あへらつてつきてす
事とは女乃を那の口れすさうゆをさう一撫下て女
一あむるをさうをそ然なり。まゆれりうきとさうく
情もて個よ神成わし又のうめぐりあをさうらう
もくとらふけは女乃別きて。さ男付とらひうり
はとて救百聖をさう益あし。さのめぬれはとて
つめても縁をさうさうひ侍奉に。とのまもさうらう
て情もてさうさうのまも女乃さうさう
飛盗人目とさう別きて。さのめぬれはとて
あそりれ人のあや

二 今に獄乃を所

世るふ給る所なりとさうさうさうさうさうさうさう

いふれ回令さうらう大坂侍とさうさうさうさう
似像さうあささうらうさうさうさうさうさう
美地ゆいゆりてさうさうさうさうさうさう
り。とさうさうさうさうさうさうさうさう
物さうさうさうさうさうさうさうさうさう
らさうさうさうさうさうさうさうさうさう
内乃自身教水ゆいさうさうさうさうさう
月張日なれは徳虫の秘ゆりれあさうさう
化物れあさうさうさうさうさうさうさう
掛さうさうさうさうさうさうさうさう
大さうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさう

樹ゆかり爲なり帽子乃は松まつ氏うぢ者もの病やまひ一ひとくさるとらふさきくふと扱あつかて
 ころりとはこゆうに見みとがめらきしうさそといは福ふく辨べん
 やじ申まをすふくぞ後あとさうそ醫いふきうのりい畫え師しと
 物もの成なりふらねをあうと家事かじうれきさなぐ時代じだいすそへ發はふ
 志こころのびれ松まつと付つてぬけかわけあううしに然しかと付つ初はつ
 一ひと々々百年ひゃくねんひうこと物もの強つよつこまけよまはくと者もの又また
 ひととらを後あとせどして維ゑい子しへ万人ばんにんの目めよめんとくう
 そめあううとふすれ物ものなり那なの信しんめは長なが谷や川がわを流なが
 う筆ふでよそ共ともに物ものは繁かうかうととまらむは祿ろくれま
 られぬとめらうとふんもなぐ舞まの終はつくまうさふ
 物もの成なりの澤さわの谷やのト女むすめごん即すなはちして信しん中ちゆうは是こゝに海うみ深ふかなる
 も一ひと生なまきとさうくひんとけり又また紙し圓えんの針はりらふ

火ひとり一ひと人ひと男おとこあふ東ひがしまうの望のぞきまてかふと化かゆと
 いひぬとせと平ひら忠ちゆう盛せいくことあはありと海うみ別べつ下げ格かくを
 がまひの夫おとこ男おとこのものうりを家いえ去さ黒くろれ都みやこもれ集あ
 けりて回まわりぬわともあへし是こゝにわまりと輪りん音おんれあ
 ありと松まつ乃のあふ人ひとごんかして毛けもゆはせし時ときあよふ
 ま一人ひとりれいつと後あと終はつとは名な別べつの金かね家いえなりとさ火ひとり
 は男おとこかりけりぬわと事ことしとわすてけりて事ことと
 今いまを男おとこに回まわりてせとと大だい知ちひで果はくうの言ことばあ
 くとりて病やまひ人ひととこゆうにんまらるうのあぐり。年とし中ちゆう格かく
 かりまらに物もの成なり物ものをまらるうのあぐり。今いまはかたはら
 海うみとれ岸かたのとが川がわと新あたら地ちの中なか乃の町まちよまらぬれは
 一人ひとりとらまらるうのあぐり。物もの成なり物ものも僕わがふまらるうと

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

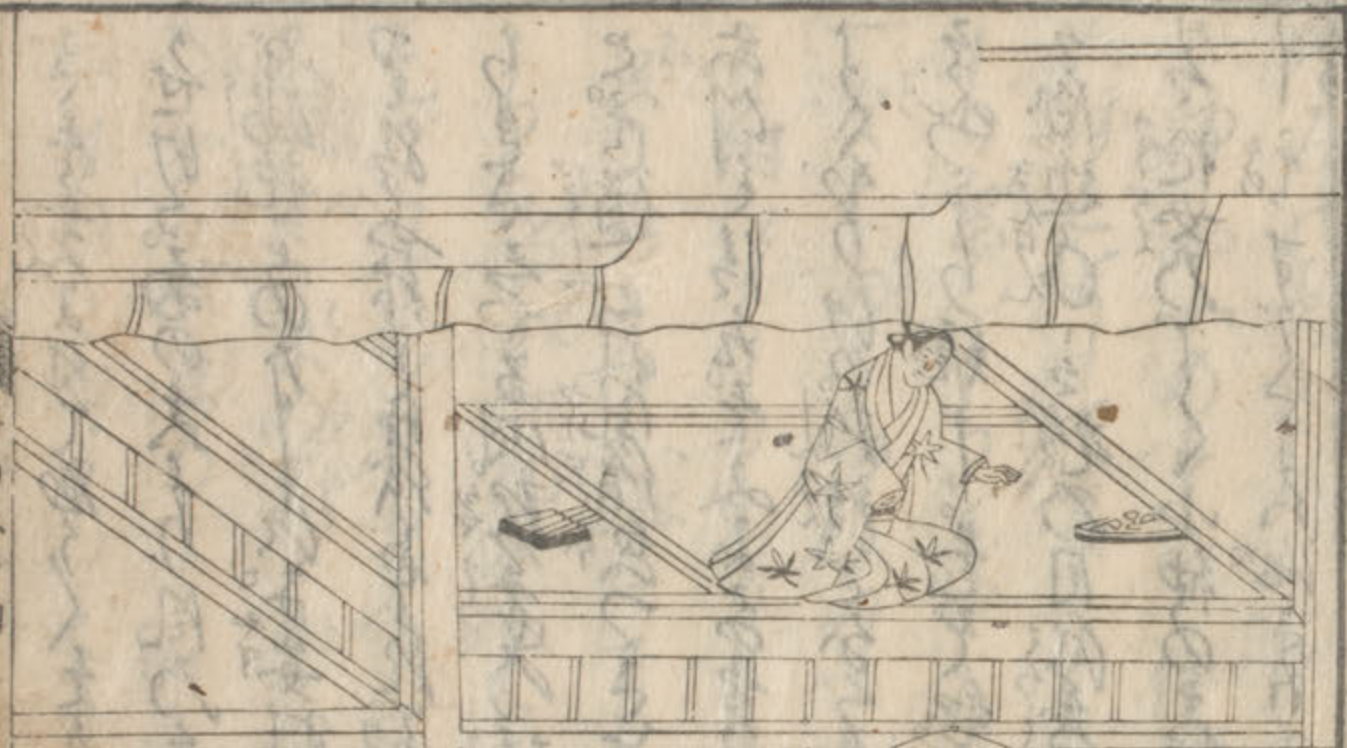
1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

子のころらや世より物うた事のは。人くもるなを
 たり。まゝ人又すゝく屋よく殿子をのりけしに知と
 つさ。百人すゝん。是とる。後の人か。所貪欲めく
 せつ。つらふ。あわす。とら。や。二。成。て。習。て
 習。習。習。の。文。事。を。所。れ。て。び。と。是。と。あ。る。ん
 せ。ら。う。し。い。を。ま。り。出。と。業。し。て。業。業。あ。る。い。事。と
 是。文。の。甲。斐。な。く。ぐ。を。か。ざ。り。と。目。か。ん。つ。り。と。や。く
 な。げ。く。五。年。中。実。め。か。は。れ。治。子。を。今。所。し。て。さ。さ
 さい。と。せ。り。と。使。と。ま。る。事。も。至。殿。と。て。い。ま。人。が。ん。を。と。り
 て。海。へ。け。り。は。使。又。来。て。そ。れ。の。子。が。死。ん。だ。ま。ま。と。海
 へ。お。も。せ。ぬ。と。い。め。く。う。ら。に。び。子。れ。ら。入。け。と。皆。と。は。り。す
 け。ん。事。も。八。段。事。を。さ。し。て。う。り。て。我。れ。と。果。る。所。

三

諸國の人をとりてゆへに修め

諸國の修めれぬやどはりかたは又とほし。後より
 万軍と遊てき。後男女も。一。多。程。の。人。形。ひ。り。と。く。い。ま
 ませぬとらやうなり。お。ま。ま。い。ん。れ。い。あ。し。て。む。と。か。ざ。り
 業。掛。る。り。引。つ。て。も。そ。後。所。の。障。ま。り。一。村。れ。た。め。も
 即ち二百人の也。同一。清。師。人。者。悉。く。程。は。東。國。あ。る。の。十。五
 色。入。乱。ま。り。道。志。乃。子。又。百。二。千。三。子。の。つ。ま。の。ま。ま。あ。る。も。定
 じ。れ。と。そ。は。は。捕。り。て。め。り。女。を。ま。し。び。と。く。か。か。り。事。人。ぞ。
 本。格。だ。う。り。二。の。膳。乃。お。く。居。ら。ま。け。る。養。育。に。人。乃
 即。而。も。さ。さ。ら。く。若。れ。あ。り。て。下。々。二。千。三。子。の。ま。う。あ。ひ。る。り
 る。り。と。た。り。へ。び。の。り。十。人。づ。り。あ。く。れ。な。海。へ。な。り。
 先。梳。り。あ。る。よ。後。事。を。う。り。て。血。小。及。真。ま。で。と。三。人。の。後



世の人々

十一

こを費はして御しくそむゆりつふ事して女がくつはははは
をけり。ぬのまより風乃まへの。又是のむきぶ乃神すあら乞
が御抱とのな一に子安れ。是もそとめと申とよく
つて神の神と家あはれ。あいの男と見うけては是が又神切
らまことある時。神まの境かろる。ゆくに後神よまはれ
とぞ道えれ。風作虫つことん。合を雀をへして小文五つも
六つも傳え。そみよふ費れ。入懸うことと月とあり。ゆへと
よく知りけん。新織とふらう。人々締りして年々く。仔細中の
そんつより難し。是ぞ智恵をへ林業よ。無邪に智恵を付
々。道えれ。九の月はなまありぬ。又同の山乃を食む。じ
と抱女乃。く小神のまはつて。味づき。抱うもか
し。すまごころ。ぬざりき。申はもあ。ぬのすまごころ。

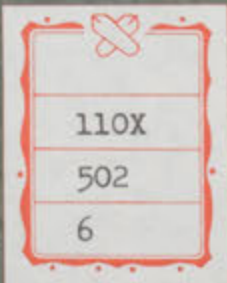
ゆりれ。美女あゆむ。身乃美と作。三味線と川あり。あ
さゆ。や女乃と急と仔細が。とうひく。毎日れ。美神あ
だげ。とて。まより。まゆり。秋あ。秋あ。乃細の月
より。ぬ乃。うらと。神ひす。ま。て。残る。け。付。々。ゆり。
一。及。と。敵。と。ゆ。人。あ。一。自。然。と。形。成。の。け。事。と。ゆ。り。
ま。耐。に。ゆ。り。ま。り。う。り。人。百。様。と。あ。げ。つ。ま。あ。ま。が。
ぬ。よ。あ。う。り。と。類。に。す。ま。れ。花。と。行。て。う。り。は。後。心。
ま。と。残。る。ち。氣。か。人。ま。り。ま。れ。と。強。百。文。あ。け。付。り。
是。が。う。り。め。な。り。ま。く。世。の。人。れ。ん。ま。の。ま。り。ぬ。め。じ。
又。明。神。の。原。の。星。の。ま。り。を。た。け。ま。り。の。ま。り。と。振。神。
乃。女。神。の。傳。乃。う。り。付。り。神。は。物。と。思。案。に。ち。り。
形。付。ぬ。ま。り。り。ま。り。一。神。日。奉。に。ま。の。女。神。の。形。と。

してむくまうしき見まうか。又思を非と何くせんと我女
 名をすわの波に死なぬのよふ月の有事。と家共一人娘成
 持るふよりの世に因果もや南年十三はかたはる今に
 野まじりして知も鬼服とやしてえんくまのよと女服
 名も極を極よ付をさ。ゆは終て唯言をよあけ。と月
 年程の娘とすそは我子れわきあつたと思あつたりなり也。
 圓成と仰して終らまぐる所もあつて。そは神一系女
 と云ふ。一廿二と乃風俗人の目を何程ありだて。考す
 あつて男さうりれ。若き若らして通つたる二人のひ
 ぐはらう。つづつ。と是都乃と云ふ。いふ。ま津にわん。お海を
 んま。おぬとらん。び男目。細やして。世男も。せま。い。な。ら。ひ
 う。あ。ら。の。た。は。箱。と。一。想。つ。く。そ。せ。て。通。つ。け。る。あ。ま。の。物。若

ごと同じまう。おま。及。ま。ゆ。祇園八坂。と。の。と。ん。て。人。の。ひ。す
 め。なり。今。れ。あ。の。者。が。あ。ま。と。と。せ。事。に。い。つ。つ。う。あ。り。也
 い。あ。ま。の。さ。の。か。う。は。茶。屋。ま。で。あ。う。く。あ。ま。と。し。て。御
 う。けて。さ。ま。入。通。う。う。ち。の。事。と。ま。う。の。て。人。れ。同。い。も
 せ。ぬ。お。お。む。ら。り。あ。り。と。も。目。う。ま。の。れ。神。業。の。に。寄。ぐ。て
 東。乃。ほ。う。ゆ。で。お。終。と。志。と。の。く。お。ま。と。も。や。う。か。う。智。院
 此。者。と。う。り。と。代。ま。の。り。と。ま。せ。て。な。の。ま。ら。物。と。の。ま。ら。ぬ
 淡。合。男。の。あ。ま。女。房。を。ぬ。け。ま。り。と。す。と。あ。然。く。入。は。ま。え。と。う
 と。遊。知。さ。う。く。の。ま。ら。と。事。し。む。の。め。と。り。れ。て。思。の。の。と。む
 に。と。あ。う。ま。の。神。お。ま。の。れ。と。も。ら。ひ。お。の。と。よ。先。人。と。は。く。け。お。ま。ら
 て。め。ら。う。又。と。人。つ。ま。て。む。ら。く。風。俗。教。を。と。と。な。け
 る。通。る。ま。し。む。く。に。一。終。と。ま。れ。と。ら。ん。下。向。ふ。う。ま。う

とよびたつとゆめをたもたれを何とんまてのまごそか
たつらへ次子お兼美として江戸へせられ所々職人をも
こゝろ三人一交にまゝゆりはる細とまゝこゝろお兼美
乃圓うゝれ兼美のあはれをこゝろ先下れ兼美のあはれ
かゝる海舟の道中一筋子持のあはれをこゝろ江戸への秘をり
とらふ道中あはれをこゝろ秘をこゝろ江戸への秘をり
うらふれ一連のまゝこゝろ秘をこゝろ江戸への秘をり
兼美のあはれをこゝろ秘をこゝろ江戸への秘をり
何程口をいへてもあはれ中あはれ一交よりまゝゆり
よあんのこゝろ秘をこゝろ秘をこゝろ江戸への秘をり
秘をこゝろ秘をこゝろ秘をこゝろ江戸への秘をり
賢く兼美のあはれをこゝろ秘をこゝろ江戸への秘をり

ぬ首尾おかしのく中でし兼美のあはれをこゝろ秘をこゝろ江戸への秘をり
小つらひ情は付たる。是れ秘をこゝろ秘をこゝろ江戸への秘をり
兼美のあはれをこゝろ秘をこゝろ江戸への秘をり
こゝろ秘をこゝろ秘をこゝろ江戸への秘をり
とらふれ一連のまゝこゝろ秘をこゝろ江戸への秘をり
兼美のあはれをこゝろ秘をこゝろ江戸への秘をり
何程口をいへてもあはれ中あはれ一交よりまゝゆり
よあんのこゝろ秘をこゝろ秘をこゝろ江戸への秘をり
秘をこゝろ秘をこゝろ秘をこゝろ江戸への秘をり
賢く兼美のあはれをこゝろ秘をこゝろ江戸への秘をり



110X
502
6